



第40号
2023年月号
(2023年月日発行)
カトリック和泉教会

“自分が中心”から神に向かって

ジュアン ロムアルドス 神父

教会は毎年、灰の水曜日から四旬節の40日間の回心の旅路を始めます。“改心して、福音を信じなさい”と悔い改める言葉で回心のしるしとして頭や額などに灰を受ける。また、断食、祈り、施しを通して、私たちは神の御前で自分自身の基本的な真実を再び発見するよう求められているのです。

なぜ神の前で自分自身を再発見する必要があるのですか？ご存知の通り、いまだにテクノロジー、特にソーシャルメディアは、私たちの生活のあらゆる部分に影響を及ぼしている。

この高度な人間生活のおかげで、私たちは“自分が中心”の文化の中で生きている。

例えば、意見、写真(自撮り!)、居場所、食べたもの、見た番組、気分などなど、私たちは自分自身に関するすべてをソーシャルメディアに投稿しやすくなっている。しかし、教会は私たちに本当の自分自身に立ち返ることを思い出させてくれる。

この四旬節の40日間は、私たちが「自分らしく」あること、つまり信仰にますます献身するように、異なる視点に集中するよう呼びかけている。イエスは私たちに3つの修練、すなわち、断食(他人を思いやる)、祈り(神様の声を聞く)、施し(分かち合い)をおもいおこさせます。この四旬節の40日間、洗礼の約束を新たにし、私たちの主イエス・キリストに再び献身する、解放の時であるイースターに向け、自らを準備する旅路を共に歩みましょう。

Turn to God from being self-centered

Rev. Juang Romualdus

Each year, the Church begins a 40-days of conversion journey of Lent on Ash Wednesday. As the priest applies the ashes to a person's forehead as a visible symbol of conversion, he speaks the words: "Repent and believe in the Gospel." At the same time, we are called to rediscover the basic disciplines of prayer, fasting, and almsgiving.

Why do we need to rediscover ourselves before God? As we all know, technology, especially social media, still influences every part of our lives. Thanks to this advanced human lifestyle, we live in a "me-centered" culture. For example, it's easy for us to post everything about ourselves on social media: our opinions, photos (selfie!), where we are, what we eat, what shows we watch, what we're feeling, and more. However, the church reminds us to return to our true selves.

The 40 days of Lent challenge us to "be ourselves," that is, to focus on different perspectives in order to become more and more committed to our faith. Jesus reminds us of the three disciplines: fasting (caring for others), prayer (listening to the Word of God), and almsgiving (charity towards neighbor). During these 40 days of Lent, let us prepare ourselves to follow the Lenten journey, the time of liberation, when we renew our baptismal promises and rededicate ourselves to our Lord Jesus Christ.

- - + - - # - - & - - % - - ? - - * - -



教皇フランシスコメッセージ

「コロナの世界を生きる」抜粋
(21)

第三部 行動するとき(9)



民は常に、心の中に約束を抱えています。それは排斥に苦しむ彼らを、彼らが望む場所へと導く誘いです。イエスの説教は、彼らの血潮に流れる、祖先からの約束を蘇らせた。それは、祖先から受け継がれた、神への親近感と自らの尊厳に対する認識です。イエスは彼らに語り、

触れ、癒すことで親近感をもたらし、その認識が本物であることを示したのです。彼は未来へと繋がる希望の道筋を拓いてみせました。それは政治の上のみならず、真の意味での人類の解放への道筋であり、神のみが与えることのできる尊厳を授けてくれるのです。

だからこそ、彼らはイエスに従いました。イエスは彼らに尊厳を与えたからです。姦淫をしているところを捕まった女性を糾弾する者たちが立ち去り、彼女と二人きりになったとき、イエスは彼女の尊厳を認め、「お帰りなさい。今後はもう罪を犯さないように」と告げられました(ヨハネによる福音書8:11)。イエスにとって人間はみな尊厳に値する存在であり、価値がありました。イエスは人間一人ひとりの、そして、民全体の真の価値を回復させました。彼には神の目を通して、「神は見て、良しとされた」(創世記1:10)ことが見えていたのです。

それ故イエスは、法と伝統を牛耳っていた宗教界のエリートたちの考え方を拒絶しなくてはなりません。当時は宗教関連の財産を所有することが他者より優位に立つための手段となっており、彼らは自分たち以外の者たちを調べ、裁いていました。イエスはすべての人を、神を愛し得る者とするために、取税人も「悪評の女性」も一緒に受け入れ、エリートたちに囚われていた宗教を奪い取りました。貧しい人々、社会から爪弾きにされた人々、片隅に生きる人々と共に歩むことで、神と神の民たちとを隔てていた壁を取り払ったのです。

イエスは、神が貧者や罪人の近くにいることを示すことで、周りで起こっていることを無視して自己を正当化する考え方を糾弾しました。そうした考え方は最悪の場合、人種差別に走ったり、特定の集団に属していない人を見下したり、移民を脅威と見なして支配と排斥のために壁を築いたりといった行為に繋がるのです。

排斥された人々がイデオロギーや権力のためではなく、尊厳ある人生のために必要な三つのL(Land:土地, Lodging:住まい, Labor:仕事)を手に入れるために組織化するとき、そこにはしるしと約束と天啓があるといえます。だからこそ私は、ローマ教皇として民衆運動を応援し、共に歩むのです。2017年2月にカルフォルニア州で開催された会議にメッセージを寄せたのもその一環です。

私は、各会議で、現在世界で起こっている人間性抹殺のプロセスを覆せるかどうかは民衆運動にかかっていると述べました。新しい未来の種を蒔き、私たちに必要な変化を促進する人々によって、経済は人々のために機能し、平和と正義を築き、母なる地球を守る運動です。

社会の健全さはその周縁によってはかられます。見捨てられ、排斥され、見下され、放置された周縁は、社会の不安定さと不健全さを露呈しており、根本的な改革なしには存続することはありません。しかしヘルダーリンが言うように「危険の存在するところ、救いもまた育つ」のです。

人民の尊厳を復活させるという希望は、社会の片隅から生まれます。それは貧困だけでなく、宗教やイデオロギーによる迫害など、様々な横暴によって生まれた社会の片隅にも当てはまります。片隅、そして民の組織を受け入れることで、変化が解き放たれるのです。

Message from Pope Francis
Excerpt from "Living in the World of Corona" (21)

Part III: When to Act (9)

People always have a promise in their hearts. It is an invitation to lead them who suffer from ostracism to where they want to be. Jesus' preaching revived the promises of their ancestors that flowed in their blood. It is an affinity for God and an awareness of one's own dignity, inherited from our ancestors. Jesus brought them a sense of closeness by speaking, touching, and healing them, and showed them that their perception was real. He paved the way for hope for the future. It is not only a political path, but a path to the liberation of mankind in the true sense of the word, and it bestows on us a dignity that only God can give.

That's why they followed Jesus. Because Jesus gave them dignity. When the condemns of the woman who was caught committing adultery departed and were alone with her, Jesus acknowledged her dignity and told her, "Go home, and sin no more" (John 8:11). To Jesus, all human beings were worthy of dignity and were valuable. Jesus restored the true worth of each human being and the whole people. He saw through God's eyes that "God saw and was good" (Genesis 1:10).

Therefore, Jesus had to reject the ideas of the religious elite who dominated law and tradition. At that time, owning religious property was a way to gain an advantage over others, and they examined and judged others. In order to make all people receptive to God, Jesus accepted both publicans and "women of notoriety" and took away the religion that had been held captive by the elite. By walking with the poor, the marginalized, and the marginalized, He broke down the barriers that separated God from His people.

Jesus condemned the idea of justifying oneself by ignoring what is happening around him by showing that God is close to the poor and sinners. At worst, this mindset can lead to racism, contempt for those who don't belong to a particular group, and building walls for domination and exclusion by viewing immigrants as a threat.

When the ostracized organize not for ideology or power, but for the sake of obtaining the three L's (Land, Lodging, and Labor) necessary for a dignified life, there are signs, promises, and revelations. That is why, as the Pope of Rome, I support the people's movement and walk with it. Part of this was a message to a conference in California in February 2017.

At each conference, I said that it was up to the people's movement to reverse the process of dehumanization that is currently taking place in the world. With those who sow the seeds of a new future and facilitate the change we need, the economy works for people, builds peace and justice, and protects Mother Earth.

The health of a society is measured by its periphery. Abandoned, ostracized, looked down upon, and neglected, the marginalized exposes the instability and unwholesomeness of society, which cannot survive without radical reform. But, as Hölderlin says, "Where there is danger, salvation also grows." The hope of reviving the dignity of the people comes from the margins of society. This applies not only to poverty, but also to the corners of society created by various tyranny, such as persecution by religion and ideology. It is through the acceptance of the organization of the people that change is unleashed.

2024 年和泉教会で新年会がありました。

さる1月14日ミサ後新年会が開催されました。

日本人信徒だけでなく、フィリピンやベトナム人の信徒など約40人の方々が参加されました。

和気あいあいと皆で準備した鍋料理を食べ、楽しいひと時を過ごしました。



お知らせ

古い枝と壊れたロザリオをもってきてください。

2月14日(水)は灰の水曜日です、2月11日までに枝の主日でお持ち帰りいただいた、昨

年の古い枝を持ってきて頂くようにお願いします。古い枝を燃やし灰の水曜日の灰を作

ります。14日の灰の水曜日のミサは19:30より行います。

また、壊れたロザリオがありましたら教会に持ってきてください、ジュアン神父様が6月に

インドネシアに帰省する際、持っていき修理して現地で販売されるそうです。

十字架の道行きについて

四旬節の十字架の道行きは2月25日(日)より、3月24日(日)までミサ後に行います。

ご参加をお願いします。

能登半島地震の義援金について

今年元日に発生しました能登半島地震の募金箱を設置しました、テレビなどの報道で

の通り、大きな被害が発生した能登半島地震、今だ窮屈な避難生活を強いられている被災者

の方々が多数いらっしゃいます、また、カトリック教会においても、輪島教会と七尾教会

および教会併設の幼稚園が大きな被害を受けました。

義援金の送り先は、カリタスジャパンを通じて被災した地域の方へ、名古屋教区を通じて

教会及びカトリック関連施設や信徒の救済のために使われます。

皆様の心暖かい義援金をお願いします。

カトリック中央協議会の能登半島地震に関するHPは次の通り。

https://www.cbci.catholic.jp/japan/restoration_support/2024noto/



又は、このQRコードを読み取ってアクセスできます。

2月主日ミサ予定	浜寺 9時30分	和泉 9時30分	岸和田 9時30分
4日 年間第5主日	ロパス	村田 評議会	ジュアン
11日 年間第6主日	ジュアン・評議会 1100 利用言語ソフト	ロパス	村田 評議会
14日 灰の水曜日	19:00 ロパス	19:30 ジュアン	19:00 村田
18日 四旬節第1主日	村田	アンツァネロ	ロパス
25日 四旬節第2主日	アンツァネロ	ロパス	村田 11:00 英語



～2月の予定とお知らせ～

※講座「主日のミサの学び」・・・毎週土曜日14時30分(Sr.ルイザ担当)

2日(金)初金ミサ・・・9:30～ジュアン神父

4日(日)評議会・・・11:00～

14日(水)灰の水曜日ミサ・・・19:30～ジュアン神父

18日(日)四旬節黙想会・・・11:00～指導司祭上田憲神父

24日(土)主日のミサ・・・19:30～ジュアン神父

25日(日)～毎日曜日ミサ後十字架の道行きを行います



2月の典礼 奉仕当番	先唱	朗読	共同祈願
4日(日) 第主日	渡辺 直彦	ロッチ 瀬上 和昭	レイシエル 小野田 裕
11日(日) 第主日	五来 光政	勝田恵美子 堀川 康弘	森 郁枝 喜山章次郎
14日(水) 灰の水曜日	西川 保彦	渡辺ひろみ 小野田 裕	福田 京子 木村 副見
18日(日) 四旬節第1主日	渡辺 直彦	小山 範子 喜山章次郎	西川 愛日 古木 弘子
25日(日) 四旬節第2主日	瀬上 和昭	古木 弘子 西川 保彦	渡辺ひろみ 五来 光政